

4. 寄稿:道の駅の第三ステージ

(株)IHIインフラシステム 顧問 杉崎 光義

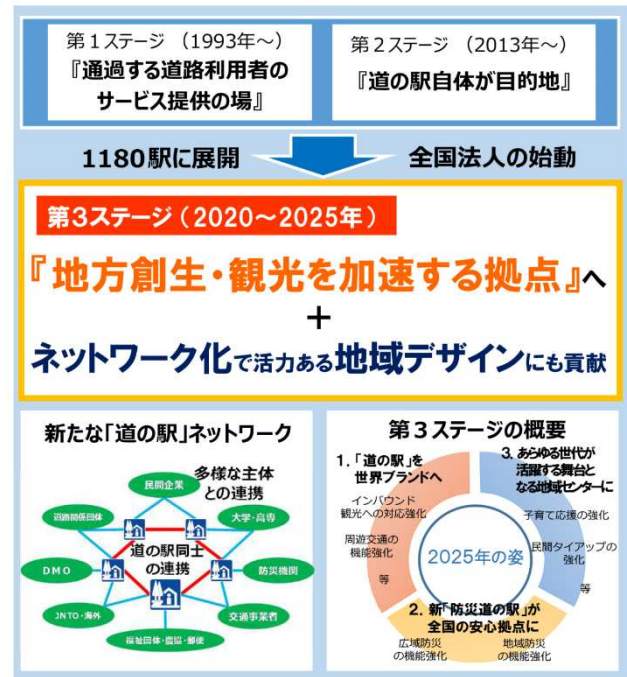
はじめに

「道の駅」は、道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供と、地域の振興や安全の確保に寄与するため「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域連携機能」の3つの機能を併せ持つ休憩施設として平成5年に誕生しました。制度から四半世紀がたち、全国で1,180駅に拡大し、地域の期待はますます高まってきている。

道の駅の第三ステージ

国土交通省では、道の駅に対する期待を踏まえ、1993年(平成5年)からを第一ステージ「通過する道路利用者へのサービス提供の場」、2013年(平成25年)からを第二ステージ「道の駅自体が目的地となる」として取り組みを進めてきた。2020年(令和2年)からは、地域の活性化や安全安心を実現するため、全国に展開している強みを活かし、「個から面(ネットワーク)」としての取り組みを強化するとしている。

各道の駅における自由な発想と地元の実情の下で、観光や防災などさらなる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速するとともに、道の駅同士や民間企業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることによって、元気に稼ぐ地域経営の拠点として力を高め、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献していくことを目指している。



最近の誕生した道の駅

神奈川県4番目の道の駅「足柄・金太郎のふるさと」が2020年(令和2年)7月、神奈川県南足柄市にオープン、東名大井松田ICを出て大雄山駅方面に行くとき左に見えてくる。施設は駐車場、トイレのほかに物販施設や飲食施設さらに子育て応援施設(授乳室、おむつ交換台)が整備されている。地域の特産品や地域の歴史や自然の情報を発信している。今後、国際観光都市「箱根」への

新たな玄関口として期待されている。道の駅は地域の顔として、地域の魅力を地元の実情で発信して欲しいものである。

